

最新技術で未来へ航海する

日本の海洋技術企業である BEMAC 株式会社は、次世代の持続可能なイノベーションを通じて、海上交通を再定義しています。

毎年 110 億トンの貨物が世界中を航行しており、海上貨物は現代のグローバル経済の基盤であり続けています。常時 5 万～6 万隻の巨大なコンテナ船が海上にあり、海洋技術企業である BEMAC 株式会社は、これらの大規模な艦隊の運航方法を将来変革しようとしています。

BEMAC は、持続可能なエネルギー、データ管理、運用における最先端のイノベーションを活用し、「MaSSA-One」と呼ばれる画期的なシステムを開発しました。このシステムは、BEMAC のリーダーたちが「止まらない船」と表現するものを実現するための鍵となるものです。

この AI 統合製品は、造船の初期段階から航海、アフターサービス、メンテナンスに至るまでのデータを収集し、効率性、持続可能性、安全性を向上させることで、船舶運航における次の大きな一歩として評価されています。

BEMAC の代表取締役社長でグループ CEO である小田雅人氏によれば、このシステムはすべての海運関係者にとって大きな利益をもたらす可能性があります。

「MaSSA-One は、船舶のデータを収集し、クラウドを介して船内およびオフィス環境で利用できるオープンプラットフォームです。MaSSA-One アプリを使用した船舶のリモート管理や AI 技術による問題の予防は、止まらない船への第一歩です」と小田氏は述べています。

IAS(統合制御システム)によって、船舶の制御が 3D 設計、バーチャルシミュレーション、分析を通じて統合されているこのプラットフォームは、78 年の歴史を持つ BEMAC 株式会社の中でも最も注目されているイノベーションの一つです。しかし、同社の製品ラインは、フィリピンなどの市場での EV 自動三輪車を含む、他のさまざまな分野にも広がっています。

バッテリー制御技術に関して豊富な実績を持つ同社は、持続可能なエネルギーを

活用した車両や船舶の開発において先駆的な取り組みを行っています。また、チームは船を定位置に留めるための「デジタルアンカー」とも言える DPS(ダイナミックポジショニングシステム)も開発しました。

小田氏によれば、エネルギーと技術分野の即時および長期的な未来に向けたエキサイティングな計画が進行中です。AI 技術の展開においてサーバーへの依存が増している中で、小田氏はグローバル市場で新たなエネルギー効率の波をサポートすることを目指しています。

「AI が使用する電力は、2026 年には日本全体の消費量に匹敵すると予測されています。我々は米国に拠点を設立し、現地の消費を削減するために、我々の専門知識を活用したいと考えています」と小田氏は述べています。

国際的な存在感とグローバルな野心を持つ同社ですが、愛媛県今治市という場所を重要な強みとしています。この地域は造船や海事産業で知られています。

「今治市は、多くの船主やメーカー、海事関連企業が集まる重要な港湾都市です。外部の専門家の協力を得ながら、優れたイノベーションやプロジェクトが迅速に完了できる環境です」と小田氏は述べています。

以 上